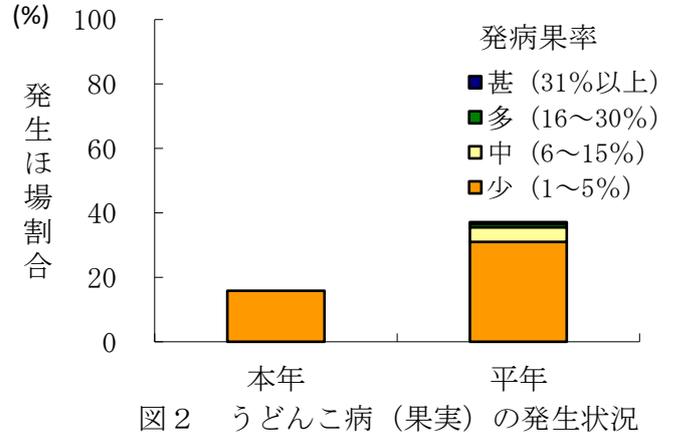
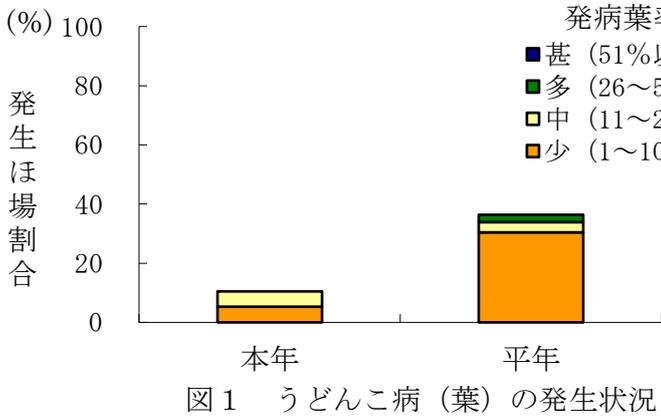


## イチゴの病害虫の発生状況（12月上旬）

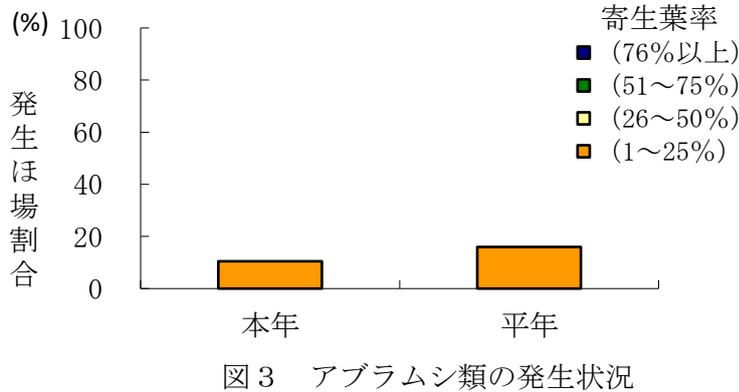
### うどんこ病

葉における発生ほ場割合はやや少ない状況でしたが（図1）、一部のほ場で果実、果梗への発生がみられました（図2）。厳寒期は施設を閉めきることが多く、湿度が上昇するため、発生しやすくなります。蔓延すると防除が困難になるので、発生初期から薬剤防除を徹底してください。



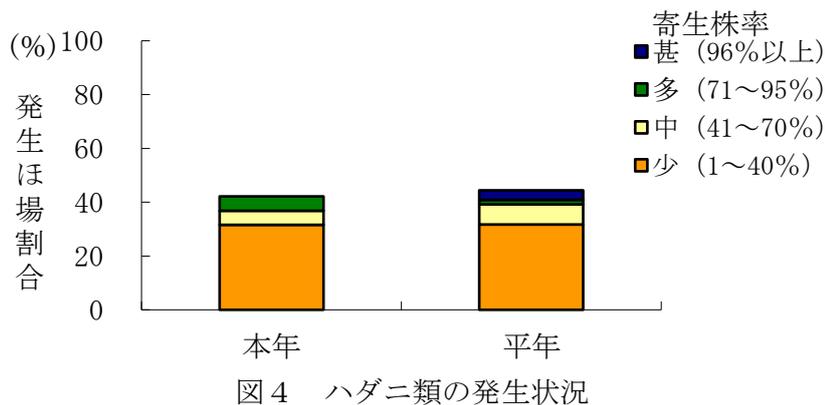
### アブラムシ類

発生ほ場割合は平年並でした（図3）。一部のほ場で果梗への寄生が確認されています。低密度時から薬剤防除を実施してください。



### ハダニ類

発生ほ場割合は平年並でした（図4）。早期発見に努め、低密度時から防除を実施してください。抵抗性の発達が懸念されるので、薬剤の選択には注意してください。また、ハダニ類の防除にチリカブリダニやミヤコカブリダニを放飼している場合には、これらカブリダニに影響の小さい薬剤を選択してください。



## コナジラミ類

発生ほ場割合は平年並でした（図5）。密度が高くなるとすす病発生の原因となるので、低密度時から防除を実施してください。また、ラノーテープを使用している場合でも、寄生密度が高いほ場では防除を実施してください。

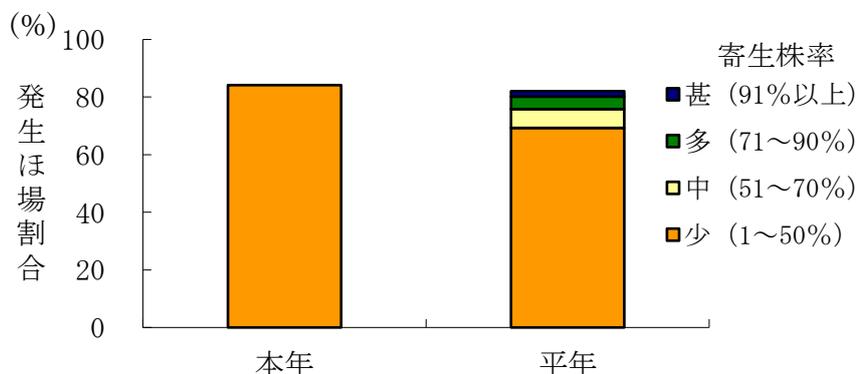


図5 コナジラミ類の発生状況

## アザミウマ類

発生ほ場割合は平年並でした（図6）。密度が高くなると被害果が発生します。開花中の花をよく観察して、寄生がみられる場合は密度時から防除を実施してください。

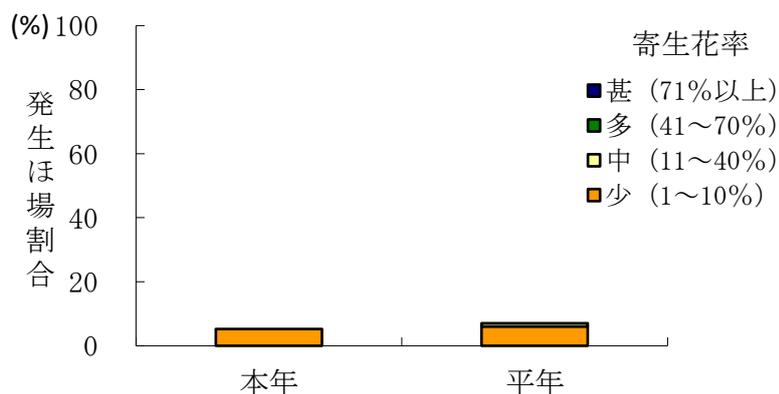


図6 アザミウマ類の発生状況

- 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727

e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp